

**信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果**

プログラム名	グローバル人材育成のための北欧教育視察プログラム	
学部・研究科名	教育学部	
実施期間	2015年2月26日(木)～2015年3月9日(月) (11泊12日)	
研修先(国・都市・施設名)	スウェーデン王国、ヨテボリ市・パティレ市・ムンダル市、クングスバック市、基礎学校・大学・市役所 ほか	
参加学生数	： 5名	知の森基金からの支援者
		： 5名
プログラム概要	本プログラムは、教員志望の学生に海外の先進的な教育実践に触れる機会を提供することで、グローバルな視野をもった人材を育てるという意図から、スウェーデンの学校(幼稚園、小学校、中学校段階に当たる)や大学、市役所等を訪問した。	

実施状況・成果

3月2日(月)にはパティレ市にある基礎学校と付設の特別支援学校、統合教育を行う特別支援学級を参加した。3月4日(水)には、クングスバック市役所を訪問し、教育長による市の教育施策の概要の説明を受けたのち、市の職員による案内で幼児映画祭に参加し、その後ホーレベックス基礎学校を訪れた。ホーレベックス基礎学校では、iPadを一人一台支給しているほか、ファースティーチャー(主任教員)の配置によってICTの授業での活用に積極的に取り組んでいた。また、3月6日(金)には、ムンダル市のエクランダ基礎学校を訪れ、普通学級のほか、就学前学級や余暇教育施設等を見学した。同日夕方からは、ヨテボリ日本人補習校を訪れ、在留子女の教育課題や、地元の保護者の熱意による日本文化の継承の取組についてお話を伺い、授業を見学した。学校訪問後には、2時間程度のリフレクションを行い、各参加者が感じたことや我が国の示唆等について話し合い、理解を深めた。

今回のプログラムでは、学校訪問以外にストックホルム大学大学院に留学する日本人学生や、ヨテボリ大学の教育学部に通う教員志望の学生等と面会した。教育は生活と密接な領域であることから、地元の人がどのように暮らし、子どもたちがどのような環境で育っているのかを見ることは極めて重要だが、学生たちは特に年齢や興味が近いことから、活発に情報交換をすることができた。(詳細については、ブログ記事を参照)

学生たちにとっては、自分の専門とする分野(教育)において海外の事例を目にすることができ、大変意義のあるプログラムだった。学部には、事前準備の段階から多くのご支援をいただき、安全に渡航することができた。今後も同様の取り組みが続けられることが望まれる。

学生の声①-教育学部 学生

6年生のクラスにお邪魔すると、子どもたちが日本語で話しかけてくれたり、日本のことについてたくさん興味を持ってくれました。積極的に質問をしてくれる姿や漢字をノートに記す姿を見て、主体的に学ぼうとする姿勢を感じました。北欧研修では学校を見るだけでなく、地元に住む人たちと交流したり、観光したりもしました。この中でただ日本の学校との違いを知るだけでなく、生活や文化の点を含めた社会的背景からも日本との違いを考えることができました。この旅はわたしたちが無知であることを改めて実感するとともに、もっといろんなことを知りたい、視野を広げたいという探究心を刺激するものでした。

学生の声②-教育学部 学生

実際に学校を訪問してみて強く感じたことは、子ども一人ひとりが学べる環境づくりへの力の入れ方です。特別支援学級では、子ども1人ずつに部屋が用意されており、興味のある事を集中してできるようになっていたり、教師と子どもが適度な距離感で接している様子があったりと、子どもを一人の人間として対等に関わっているように見えました。通常学級の社会科では、アイスの棒で丈夫な橋を作るという課題が行われてましたが、子どもたちは本物の橋をインターネットで調べたり、棒を何度も並べたりと試行錯誤していました。子どもの学ぶ意欲を大事にしているんだなと感じました。視察旅行で学校訪問をして、もっと色んなことを学ばないと、学びたいな、と感じました。

オーイェルショー基礎学校における
宗教科の授業の様子



ホーレベックス基礎学校における
日本の紹介の様子

